

5 富士山の世界文化遺産登録に向けて

静岡県からのお知らせ

公開セミナー「富士山を知ろう」を開催

富士山の文化的価値を県民の皆様に理解していただくため、県学術委員会委員を講師として3回シリーズの公開セミナーを開催しました。今回はその内容を紹介します。

第1回『富士山の自然の特性』

■日時／平成21年9月12日(土) ■場所／富士市交流プラザ ■講師／土 隆一氏(静岡大学名誉教授)

- ・1700万年前、伊豆半島はフィリピン東方の熱帯火山群だった。それがフィリピン海プレートとともに北進し、200万年前までに本州に衝突した。富士山は、日本の陸上火山では稀な玄武岩の火山であることから、その衝突の際に南海トラフが折り曲げられ、大量の玄武岩マグマが供給されてきたと考えられる。
- ・富士山の主な湧水は、標高1000メートル以上で降った雨が10年から15年かかって湧き出していることが科学的な分析により判明している。



第2回『こころのふるさと 富士山の歴史と信仰』

■日時／平成21年10月3日(土) ■場所／裾野市東西公民館 ■講師／中村羊一郎氏(静岡産業大学教授)

- ・富士山の噴火は、一般人には理解できない神業であり、噴火を鎮めることが浅間神社の原型となった。また、富士山は、漁師や航海者にとって自らの位置を測るための目印だった。特に漁師からは、海上安全、大漁の神様として信仰されていた。
- ・人々は、昔から富士山に人格を与え、神聖なる山として富士山から特別な力をもらっている。富士山には、原始的な山岳信仰の形態が残っており、世界的にみてもまれな精神の象徴として位置づけられている。



第3回『富士山はいかに描かれてきたか』

■日時／平成21年10月17日(土) ■場所／清水テルサ ■講師／片桐弥生氏(静岡文化芸術大学准教授)

- ・『伊勢物語』九段では、「富士山は京都でいえば比叡の山を二十ばかり重ねた程で、形は塩を盛ったよう(円錐型)である」と紹介されている。
- ・鎌倉時代以前は、富士山の実際の姿を見た人が少なく、描かれた絵は山の傾斜が実際よりも急で、高い山ということが強調された。鎌倉時代になると東海道の往来が盛んになり、富士山を目にする人が増えたことから、実際の形に近い絵が描かれるようになった。



《現地学習会》

■日時／平成21年11月15日(日) ■視察地／富士山本宮浅間大社、白糸ノ滝、村山浅間神社、富士山資料館など

公開セミナーの受講者を対象に現地学習会を実施しました。

今回の学習会は富士山の世界文化遺産登録における構成資産候補地を視察しました。参加者からは「富士山について新たな発見があった」、「富士山の文化的価値を再認識できた」、「詳しい説明を聞くことができて非常に興味深かった」などの感想が寄せられました。

来年も同様のセミナーを行う予定ですので、多数の皆様のお参加をお待ちしています。



<富士山本宮浅間大社での説明の様子>